

上越市指定棚田地域振興活動計画

作成主体の名称：上越市指定棚田地域振興協議会

1 指定棚田地域振興活動を通じて保全を図る棚田等に関する事項(棚田等の名称及び範囲)

地域	棚田等の名称
旧金谷村地域	正善寺の棚田
旧春日村地域	
旧小黒村地域	大原の棚田、小黒の棚田、切越の棚田、朴ノ木の棚田、和田の棚田
旧菱里村地域	樽田の棚田
旧大島村地域	菖蒲西の棚田、牛ヶ鼻の棚田、西沢の棚田、仁上の棚田、石橋の棚田、中山の棚田、大島の棚田、中野の棚田、菖蒲東の棚田
旧保倉村地域	牧山の棚田、糞山の棚田、大平の棚田、長野・一ノ瀬・島田の棚田、干平の棚田、大久保・上新田の棚田、上達の棚田
旧牧村地域	泉の棚田、岩神・折居の棚田
旧黒川村地域	松留の棚田、上中山の棚田、猿毛の棚田、水野の棚田、下牧の棚田、平沢の棚田、芋島の棚田、米山寺の棚田、岩野の棚田
旧黒岩村地域	東横山の棚田、南黒岩の棚田、北黒岩の棚田
旧源村地域	上川谷の棚田、下川谷の棚田、石谷の棚田、名木山の棚田、大賀の棚田、村屋の棚田、稲古の棚田、川袋の棚田、大岩の棚田、米山の棚田、山中の棚田、高沢入の棚田、坪野の棚田
旧矢代村地域	岡沢の棚田
旧板倉村地域	筒方川西地区の棚田
旧楡池村地域	青柳の棚田、梨窪の棚田、鶯澤の棚田、上中條の棚田、鈴倉の棚田、寺脇の棚田、東戸野の棚田、棚田の棚田、北野・水草の棚田、梨平の棚田、赤池の棚田
旧菅原村地域	上田島の棚田
旧名立村地域	丸田・折居の棚田、峠の棚田、濁沢の棚田、瀬戸・東飛山の棚田

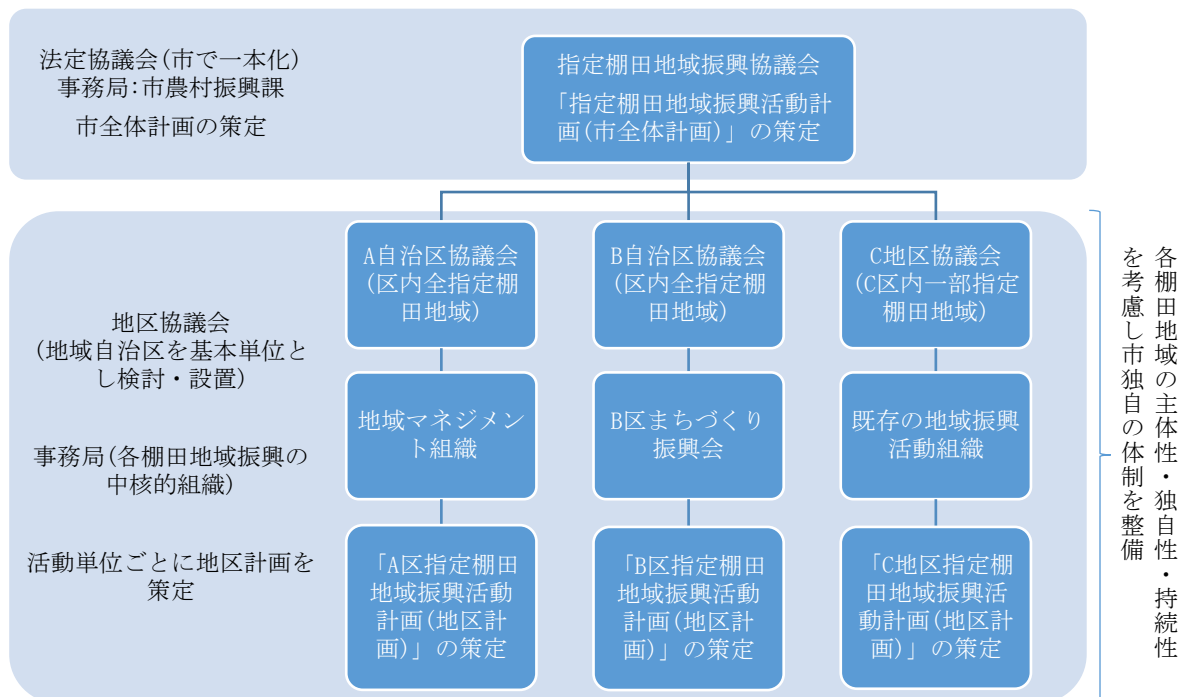
※ 範囲については、別添1のとおり。

2 指定棚田地域振興活動の目標

上越市では、棚田地域振興法の施行前から棚田地域の振興に資する多種多様な取組が各地域で行われており、これらの取組をさらに促進するため「上越市第6次総合計画後期基本計画(計画期間:令和元年度～4年度)」をはじめ「上越市食料・農業・農村基本計画(令和3年4月改定 計画期間:令和3年度～12年度)」などに具体的な施策等を定め各種事業に取り組んでいます。また、この基本計画に基づく施策の実効性を高めるため、令和7年度までの年次的な取組内容を明確にした、わかりやすく具体的な実行計画(アクションプラン)を策定し取り組むこととしています。これらの計画に掲げている地域振興に関する指標を本計画の棚田地域振興に資する活動に関連付け、「共通目標」として掲げることとします。

棚田地域振興法に基づく「指定棚田地域振興協議会」の設置及び「指定棚田地域振興活動計画」の策定は、上越市全体計画とし本計画に1本化しますが、各棚田地域の主体性・独自性・持続性などを考慮し、市独自で、地域自治区を活動の基本単位とした地区協議会を設置し、地域自らが棚田地域振興活動を計画・実施・進捗管理できる体制を整備することで、本計画の実効性を担保します。さらに、各地域における特徴的な取組や代表となる指標を「地域別目標」に据えるとともに、上越市指定棚田地域振興協議会の構成員に地区協議会の代表者を選任することで、本協議会で議論した内容や地区協議会個々の取組を互いに共有し、広く市内全体に波及させることとします。

これらの個々の活動と市全体での活動を有機的に結び付け展開していくために、棚田地域の振興に関連する国や新潟県の施策を有効活用し、地域の自主的な取組の促進による棚田等の保全、棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮及び棚田を核とした棚田地域の振興を図ることとします。



(1) 棚田等の保全

「棚田等の保全」のため、地域の自主的な取組の促進により、農地の有効活用や生産基盤の維持につながる取組を推進します。

- 農地保全、耕作放棄の防止
 - ・ 多様な幅広い人材を受け入れて農地を保全する仕組みを整える。
 - ・ 中山間地域等直接支払交付金第5期対策期間中における、取組集落数及び協定農用地面積を維持する。
- 有害鳥獣被害防止対策の推進
 - ・ 電気柵の整備等により、有害鳥獣による農作物被害が減少し、農地利用が円滑に図られる状態とする。
- 担い手の確保
 - ・ 棚田地域における集落営農組織の設立や法人化などの組織化に向けた話し合いを加速させ、組織化を図る。
 - ・ 地域外の人材を活用する取組や地元の若者が農業や地域を考える場を設定し、検討を行う。
- 生産性・付加価値の向上
 - ・ 棚田地域の営農組織等において、スマート農業機械や省力化資材等を導入している状態とする。

□ 共通目標

農地保全	鳥獣対策	担い手確保	生産性向上	指標	現状	目標
○			○	中山間地域におけるほ場整備面積 中山間地域における生産条件の改善に向けた水路、ほ場等の総合的な整備推進を図る。	306ha (R1)	646ha (R12)
[食料・農業・農村基本計画]						
○	○			イノシシによる水稻被害面積 電気柵の設置など鳥獣被害防止対策を引き続き行うほか、行政区域を越えて広域化する鳥獣被害を抑制するため、関係機関と連携しながら、鳥獣の捕獲に取り組む。	15.5ha/年 (R1)	2.4ha/年以下 (R4)
[第6次総合計画]						
○		○		農地集積率 実質化された人・農地プランの実行と、担い手への農地集積・集約化を推進する。	69.4% (R1)	90% (R12)
[食料・農業・農村基本計画]						

農地保全	鳥獣対策	担い手確保	生産性向上	指標	現状	目標
○	○	○	○	中山間地域等直接支払制度取組集落数 集落内外の組織や非農家などの多様な主体の参画の下で、活動組織の広域化等や人材確保、省力化技術の導入を推進する。	221 集落 (R2)	221 集落の維持 (R12)
					[食料・農業・農村基本計画]	
○		○		地域マネジメント組織の設置・取組 農業生産活動の継続や農地の維持を図るため、地域マネジメント組織の取組の強化を図るほか、専門的な知見を有する元気な農業づくり推進員による各集落への農業技術の指導・助言等や、中山間地域等直接支払制度を活用した集落活動等を推進する。	市内 12 の組織において 中山間地域の活性化に向けた取組が行われている状態 (R1)	各地域の維持、再生に向けた取組が継続されている状態 (R4)
					[第 6 次総合計画]	
			○	スマート農業機械導入・活用する経営体の割合 農業現場のデジタル化・スマート農業の実践による省力化・生産コスト低減を推進する。	0.8% (R1)	100% (R12)
					[食料・農業・農村基本計画]	

□ 地域別目標

農地保全	鳥獣対策	担い手確保	生産性向上	指標	地域	現状	目標
○				耕作放棄地を活用し、山菜を栽培・出荷する。	金谷村・春日村	定植後間もないため未収穫 (R1)	50a で栽培した山菜を出荷 (R6)
					保倉村	— (R1)	作付面積計 30a (R6)
○				農地の荒廃を防ぐため、休耕田を利用してそばを栽培する。	源村	栽培面積計 1.4ha (R1)	栽培面積計 1.6ha (R6)
					板倉村	そば栽培面積計 10.6ha (R2)	そば栽培面積計 16ha (R6)

農地保全	鳥獣対策	担い手確保	生産性向上	指標	地域	現状	目標
○				耕作放棄地が懸念される棚田で地元の酒蔵と連携し原料米を栽培する。	黒川村・黒岩村	原料米栽培面積 計 1.0ha (R1)	原料米栽培面積 計 2.0ha (R6)
○	○			集落間の連携や非農業者の参加による電気柵やわなの設置・撤去等を実施し、鳥獣被害の抑止を図る。	黒川村・黒岩村	個々の集落による電気柵の設置・撤去 (R1)	集落間連携や地区を越えた連携体制整備 (R6)
					源村	くくりわな 6個設置 小動物用箱わな 6個設置 非農業者参加 0人 集落間連携 0集落 (R1)	くくりわな 12個設置 小動物用箱わな 6個設置 非農業者参加 10人 集落間連携 2集落 (R6)
					板倉村	— (R2)	捕獲免許取得 1人 (R3) 猟友会と共同で見回り・捕獲わなの設置 (R6)
○	○			研修生や地域おこし協力隊等の地域外の人材等を受け入れ、新たな担い手を育成する。	小黒村	— (R1)	1人 (R6)
					黒川村・黒岩村	— (R1)	1人以上 (R6)
					源村	— (R1)	1人 (R6)
					楡池村・菅原村	— (R1)	1人 (R4)

農地保全	鳥獣対策	担い手確保	生産性向上	指標	地域	現状	目標
○	○	○		外部人材（棚田サポート事業）の受入れを継続し、農道水路の維持管理や棚田の保全を図る。	牧村	(泉地区) 受入れ 年1回 5人 (岩神折居地区) 受入れ 年1回 20人 (R1)	受入れ 年1回 15人 受入れ 年2回 延べ30人 (R6)
					板倉村	受入れ 年3回 延べ50人 (R2)	受入れ 年3回 延べ60人 (R6)
○	○	○		地域の農業者が農地を引き継ぐことができる営農組織を設立する。	名立村	— (R1)	営農組織設立 (R6)
○	○	○		農地等の保全を担う複数の法人が連携して不足する人材を確保する。共同で多様な担い手として養成し雇用する組織の立ち上げと運営を支援する。	榎池村・菅原村	— (R1)	1組織設立 4人雇用 (R6)
		○		女性グループの組織化や集落の会議等への女性の参画により、地域活性化の体制の確保を図る。	牧村	集落の会議等への女性の出席なし (R1) 女性グループなし (R1)	集落の会議等への女性の出席回数 3回/年以上 (R6) 女性グループの組織化 (R4)
					榎池村・菅原村	会員数0人 (R1)	会員数20人 (R6)

農地保全	鳥獣対策	担い手確保	生産性向上	指標	地域	現状	目標
		○		若者農業者の集い(スマート農業研究会研修会)を開催し、先端技術の導入検討や若者の農業者間の交流促進と連携体制を構築する。	楡池村・菅原村	研修会 1回/年開催 (R1)	研修会 3回/年開催 (R6)
			○	ラジコン草刈り機やドローン等を導入し、農作業の効率化を図る。	小黒村	— (R1)	ドローンによる 共同防除面積 10ha以上 (R6)
					大島村	ドローン 1台 共同防除面積 — (R1)	ドローン 2台 共同防除面積 24.8ha (R6)
					保倉村	ラジコン草刈り 機0台 (R1)	ラジコン草刈り機 3台 (R6)
					牧村	— (R1)	トラクタを 新たに1台 導入し、そ ば作付面積 5.0haの70 %を草刈 (モア使用) (R6)
					楡池村・菅原村	— (R1)	ドローン2台 で全協定面 積の60%を 防除 (R6)

農地保全	鳥獣対策	担い手確保	生産性向上	指標	地域	現状	目標
			○	防草シートを設置し、畦畔管理の省力化を図る。	菱里村	— (R1)	防草シート 500 m ² に設置 (R6)
					名立村	— (R1)	防草シート 1,200 m ² に設置 (R6)

(2) 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

「多面にわたる機能の維持・発揮」のため、棚田等の保全を通じた、農産物の供給の促進や自然環境の保全のほか、良好な景観の形成、伝統文化の継承などにつながる取組を推進します。

○ 農産物の供給の促進

- ・ 棚田地域において農産加工品の開発に取り組む組織を増加させる。

○ 農産物等の販売拡大

- ・ 棚田地域において直売所への出荷やネット販売に取り組む組織を増加させる。
- ・ 棚田地域において棚田米等のブランド化に取り組む組織を増加させる。

○ 自然環境の保全・活用による良好な景観の形成

- ・ 棚田地域において環境保全型農業に取り組む組織を維持する。
- ・ これまで取り組んできた、里地里山の保全に対する企業や団体等による地域貢献活動を継続させる。

○ 伝統文化の継承

- ・ 棚田地域における伝統芸能・行事等、文化資源の保存・活用を図り、次世代への継承に取り組む。

□ 共通目標

農産物の供給促進	農産物の販売拡大	自然環境の保全・活用	伝統文化の継承	指標	現状	目標
	○			<p>コシヒカリ食味ランク</p> <p>中山間地域の棚田米などの高付加価値化による販売戦略の構築などを通して、持続的かつ需要に応じた計画的な米生産を推進する。</p>	特A (R1)	特A (R12)
				[食料・農業・農村基本計画]		
	○	○		<p>地産地消推進の店（認定店）</p> <p>農産物直売所や小売店での販売、飲食店や学校給食での使用を中心とした地場産農作物の消費拡大の取組を推進する。</p>	167 軒 (R1)	190 軒 (R12)
				[食料・農業・農村基本計画]		
	○	○		<p>農産物直売所販売額</p> <p>上越の食と農の魅力をより体感できる取組により、市内外における上越産農産物や農業加工品の有利販売を促進する。</p>	9 億 3,900 万円 (H30)	10 億 7,700 万円 (R12)
				[食料・農業・農村基本計画]		
			○	<p>森林組合等による市内産木材(間伐材含む)の出荷量</p> <p>森林資源を持続的かつ有効に利用するため、林道、作業路等の整備や除間伐などの森林整備を推進する。</p>	9,463 m ³ /年 (R1) [参考]計画策定時 H28:3,686 m ³ /年	3,700 m ³ /年 (目標値を達成した 状態を維持) (R4)
				[第6次総合計画]		
			○	<p>環境保全型農業に取り組んでいる面積(うち有機農業に取り組んでいる面積)</p> <p>化学肥料・化学合成農薬の使用量の低減に積極的に取り組み、自然環境と調和のとれた農業生産を推進する。</p>	1,896ha (R1)	1,896ha の維持 (R12)
				うち有機農業取組面積	62ha (R1)	120ha (R12)
				[食料・農業・農村基本計画]		

農産物の供給促進	農産物の販売拡大	自然環境の保全・活用	伝統文化の継承	指標	現状	目標
		○		多面的機能支払交付金（農地維持支払）取組面積のカバー率 隣接活動組織間の連携を促し、農業が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮に向けた地域資源の共同保全活動を推進する。	73.4% (R1)	80% (R12)
[食料・農業・農村基本計画]						

□ 地域別目標

農産物の供給促進	農産物の販売拡大	自然環境の保全・活用	伝統文化の継承	指標	地域	現状	目標
○	○			加工品の開発や特産品の生産拡大を推進する。	金谷村・春日村	加工品 0 品目 (R1)	加工品 3 品目 (R6)
			黒川村・黒岩村		横山人参約 280 m ² 干柿約 1,000 個 (R1)	横山人参約 420 m ² 干柿約 1,200 個 (R6)	
			源村		大豆 14a 120kg 味噌 0.25t (R1)	大豆 50a 400kg 味噌 1.6t (R6)	
			櫛池村・菅原村		— (R1)	新規加工品の販売 (R6)	

農産物の供給促進	農産物の販売拡大	自然環境の保全・活用	伝統文化の継承	指標	地域	現状	目標
○	○			中山間地米やそばのネーミング・パッケージを検討・作成するほか、中山間地米のブランド販売を開始する。	保倉村	— (R1)	インターネットで中山間地米を販売 (R6)
					菱里村	— (R1)	中山間地米販売を実施 (R6)
					小黒村	— (R1)	中山間地米販売量 600kg 以上 (R6)
					板倉村	— (R2)	米・そばのパッケージデザインの試作 (R6)
					楡池村・菅原村	— (R1)	新たなパッケージで中山間地米販売を実施 (R6)
				花の植栽活動や維持管理を継続する。	金谷村・春日村	アジサイの維持管理 (R1)	アジサイの維持管理 (R6)
					小黒村	花苗 1,000 本/年植栽 (R1)	花苗 1,000 本/年植栽 (R6)
					保倉村	花苗 100 本/年植栽 (R1)	花苗 150 本/年植栽 (R6)
					牧村	花畑植付け 1 回/年 草刈 2 回/年 (R1)	花畑植付け 1 回/年 草刈 2 回/年 (R6)

農産物の供給促進	農産物の販売拡大	自然環境の保全・活用	伝統文化の継承	指標	地域	現状	目標
		○		棚田周辺の森林整備と薪の生産により里山の保全を図る。	源村	薪販売量 2.8 m ³ (R1)	薪販売量 6 m ³ (R6)
			○	地区の伝統文化（獅子天狗舞、おおかみ送り）の普及啓発活動を継続する。	金谷村・春日村	伝統文化の普及啓発 (R1)	伝統文化の普及啓発 (R6)
○	○		○	国の有形登録文化財「飯田邸」の保存とともに農家レストランや農泊施設として有効活用する。	大島村	レストラン売上 130万円/年 農泊0人/年 (R1)	レストラン売上 250万円/年 農泊20人/年 (R6)

(3) 棚田を核とした棚田地域の振興

「棚田地域の振興」のため、棚田を核とした都市農村交流による関係人口の拡大や観光資源としての活用のほか、棚田米等を活用した6次産業化、棚田を舞台とした文化芸術活動などにつながる取組を推進します。

○ 集落機能の維持

- ・ 安全に安心して住み続けることができる棚田地域の実現に向け取り組む。（上越市中山間地域振興に関する取組方針に即した施策の展開）
- ・ 棚田地域における住宅屋根の雪下ろしや買い物機会の創出などの生活支援や集落機能維持のための人材確保など、各地区固有の課題に対する取組を進める。
- ・ 棚田地域における空き家や古民家を活用するとともに、移住者の受入体制を整備し、地域の活性化につなげる。

○ 棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興

- ・ 棚田地域において、各地域でつながりのある都市との交流により、関係人口の拡大を図り、地域の振興につなげる。

○ 棚田を観光資源とした地域振興

- ・ 棚田地域において、各地域における特色ある観光資源を活用した多様な取組により、交流人口の拡大を図り、地域の振興につなげる。

□ 共通目標

集落機能の維持	都市農村交流	棚田を観光資源とした地域振興	指標	現状	目標
○			地域マネジメント組織の設置・取組 農業生産活動の継続や農地の維持を図るため、地域マネジメント組織の取組の強化を図るほか、専門的な知見を有する元気な農業づくり推進員による各集落への農業技術の指導・助言等や、中山間地域等直接支払制度を活用した集落活動等を推進する。(再掲)	市内12の組織において中山間地域の活性化に向けた取組が行われている状態 (R1)	各地域の維持、再生に向けた取組が継続されている状態 (R4)
[第6次総合計画]					
○	○		中山間部に住んでいる市民の暮らしやすいと感じている割合 ・集落や地域の移住サポート団体と連携し、移住者の受入促進と関係人口の増加による労力不足の解消に努める。 ・中山間地域のコミュニティ機能の維持や、支え合い体制の構築、自主的・自発的な地域活動の継続を推進していくため、集落づくり推進員による集落の巡回、相談対応などを推進する。 ・住民が主体となった集落の将来像の実現や課題解決に向けた話し合いを促すとともに、話し合いにより具体化された取組を地域おこし協力隊の導入等により支援する。	67.9% (R1)	80.0% (R4)
[第6次総合計画]					
○	○		都市生協組合員の体験交流人数 市内外の消費者や食品関連事業者が当市の農業や農産物を知り・触れるきっかけづくりや生産者につながる機会を拡大する。	294人 (R1)	350人 (R12)
[食料・農業・農村基本計画]					

集落機能の維持	都市農村交流	棚田を観光資源とした地域振興	指標	現状	目標
			○ ○	越後田舎体験参加者（受入人数） 関係人口の創出・拡大や関係の深化を通じて、地域の支えとなる人材の裾野の拡大を図る。	3,273 人 (R1)
○		農業分野での作業従事人数(延べ作業人数) 「やりがい」「自信」「生きがい」を創出し、働ける喜びと稼げる喜びが実感できる農福連携の取組を推進し、農業経営の発展と、障害のある人の就労の可能性を高める。	2,212 人 (R1)	4,000 人 (R12)	[食料・農業・農村基本計画]

□ 地域別目標

集落機能の維持	都市農村交流	棚田を観光資源とした地域振興	指標	地域	現状	目標
			○	高齢者世帯の住宅屋根の雪下ろしや買い物送迎等の生活支援を実施・継続する。	小黒村	— 雪下ろし 0軒/年 (R1)

集落機能の維持	都市農村交流	棚田を観光資源とした地域振興	指標	地域	現状	目標
○			高齢者世帯の住宅屋根の雪下ろしや買い物送迎等の生活支援を実施・継続する。(再掲)	大島村	買物支援 2回/年 買物支援ボランティア 1人 お茶飲み 13回/年 お茶飲み交流ボランティア 1人 (R1)	買物支援 4回/年 買物支援ボランティア 2人 お茶飲み 17回/年 お茶飲み交流ボランティア 3人 (R6)
				保倉村	雪下ろし 0軒/年 (R1)	雪下ろし 3軒以上/年 (R6)
				牧村	— (R2)	草刈支援4戸 除雪支援5戸 買物支援4戸 (R6)
				源村	送迎支援 26回/年 (R1)	送迎支援 26回/年 (R6)
				櫛池村・菅原村	除雪組織隊員数 19人 (R1)	除雪組織隊員数 24人 (R6)
				名立村	お出かけ会 1回/月 (R1)	お出かけ会 夏場2回/月 その他1回/月 (R6)
○	○	○	捕獲したジビエを活用し地域の食材として食する機会を提供する。	金谷村・春日村	イノシシの肉を食う会 参加者 30人/回 (R1)	イノシシの肉を食う会 参加者 50人/回以上 (R6)

集落機能の維持	都市農村交流	棚田を観光資源とした地域振興	指標	地域	現状	目標
○ ○	○ ○		都市住民との交流事業・観光イベントを実施する。	小黒村	— (R1)	イベント開催 1回/年 (R6)
			牧村	夏まつり開催 1回/年 (R1)	夏まつり開催 1回/年 (R6)	
			源村	都市住民との交流イベント 4回/年 しだれ桜まつり開催 — — (R1)	都市住民との交流イベント 4回/年 しだれ桜まつり開催 桜マップ作成 案内看板整備 (R6)	
			板倉村	ふきんとまつり 来場者 250人 (R1) ※R2 中止 寒ざらし 蕎麦まつり 来場者 240人 (H30) ※R2 中止	ふきんとまつり 来場者 350人 (R6) 寒ざらし 蕎麦まつり 来場者 350人 (R6)	
			櫛池村・菅原村	— (R1)	星のふるさと館との共催イベント開催 1回/年 (R6)	
			名立村	— (R1)	農村田舎体験イベント開催 1回/年 (R6)	

集落機能の維持	都市農村交流	棚田を観光資源とした地域振興	指標	地域	現状	目標
			○ ○	各種求人募集フェアに参加し黒川・黒岩地区への現地見学・体験の参加者を継続募集する。	黒川村・黒岩村	現地見学・体験参加者 3人 (R1)
○	○	地域のシンボルである坊ヶ池を核として、周辺地域資源を活用し、地域住民及び来訪者が集う場を提供する。	櫛池村・菅原村	— (R1)	推進会議設置 5~10人 実践グループ 10人 主催イベント 3回/年 (R6)	
○	○	地域資源を再発見するため、春日山古道巡りコースを整備し、コースを活用したイベント等を開催する。	金谷村・春日村	散策ツアー 3回/年開催 (R1)	散策ツアー 3回/年開催 ガイド育成・配置 (R6)	
○	○	LED ライトを使った棚田でのイベント「棚田のきらめき」を実施する。イベント効果を高めるため、既存の展望広場整備や、休憩所を開設する。	牧村	— (R1)	棚田のきらめき 1回/年開催 東屋設置 休憩所開設 (R6)	

3 計画期間

認定の月～令和7年3月

4 各年度において行う指定棚田地域振興活動の内容及び実施主体に関する事項

(1) 指定棚田地域振興活動の内容

以下の指定棚田地域振興活動について、別添2の工程表に基づき実施することとする。

① 棚田等の保全

○ 農地保全、耕作放棄の防止

- ・ 自力での農地整備を実施するほか、農業者に限らず、農地保全に寄与する幅広い人材を受け入れる。
- ・ 地域マネジメント組織の機能強化を図り、各種事業の進行管理役として機能する。

○ 有害鳥獣被害防止対策の推進

- ・ 電気柵の整備や捕獲体制の強化を図り、有害鳥獣被害防止対策を推進する。

○ 担い手の確保

- ・ 棚田地域における集落営農組織の設立や法人化などの組織化に向けた話合いを加速させる。
- ・ 地域外の人材を活用する取組や地元の若者が農業や地域の在り方を検討する。

○ 生産性・付加価値の向上

- ・ 棚田地域の営農組織等において、スマート農業機械や省力化資材等を導入する。

② 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

○ 農産物の供給の促進

- ・ 棚田地域において農産加工品の開発の取組を推進する。

○ 農産物等の販売拡大

- ・ 棚田地域において直売所への出荷やネット販売の取組を推進する。
- ・ 棚田地域において棚田米をはじめとする農産物等のブランド化の取組を推進する。

○ 自然環境の保全・活用による良好な景観の形成

- ・ 棚田地域において環境保全型農業に取り組む組織の活動を推進する。
- ・ 里地里山の保全に対する企業や団体等による地域貢献活動を推進する。

○ 伝統文化の継承

- ・ 棚田地域における伝統芸能・行事等、文化資源の保存・活用を図り、次世代へ継承する取組を推進する。

③ 棚田を核とした棚田地域の振興

○ 集落機能の維持

- ・ 安全に安心して住み続けることができる棚田地域の実現に向けた取組を推進する。
- ・ 棚田地域における住宅屋根の雪下ろしや買い物機会の創出などの生活支援や集落機能維持のための人材確保などの取組を推進する。
- ・ 棚田地域における空き家や古民家を活用とともに、移住者の受入を推進する。

○ 棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興

- ・ 棚田地域において、各地域でつながりのある都市との交流を実施し、関係人口の拡大を推進する。
- 棚田を観光資源とした地域振興
 - ・ 棚田地域において、各地域における特色ある観光資源を活用した多様な取組を実施し、交流人口の拡大を推進する。

(2) 指定棚田地域振興活動の実施主体

上記(1)に掲げる指定棚田地域振興活動の実施主体は、主に下記5の上越市指定棚田地域振興協議会及び地域自治区を活動の基本単位とし設置する地区協議会の参加者である。

5 指定棚田地域振興協議会に参加する者の名称又は氏名

上越市指定棚田地域振興協議会は、上越市、町内会、商工会、観光協会・宿泊事業者等、福祉団体、農産物直売所、新潟県、農業委員会、JA、農業者団体及び地域自治区を活動の基本単位とし設置する地区協議会で構成。

参加者の名称又は氏名については、別紙のとおり。

6 その他指定棚田地域振興活動に関し必要な事項
なし